

5月5日(水)、市宮陸上競技場を主会場に『第35回登子連こいのぼりマラソン大会』（登別市子ども会育成連絡協議会主催）が行われ、あいにくの曇り空のなか親子連れなど260人の参加者は、春風を受けながら、完走を目指してさわやかな汗を流しました。

この大会は、速さを競うのではなく、健康づくりを目的に、子どもからお年寄りまで自分の体力に合わせたペースでマラソンを楽しんでもらおうと、毎年5月5日の子どもの日に行われています。

開会式で、吹き流しと3匹のこいのぼりが子どもたちの手で同競技場の掲揚塔に掲げられた後、ラジオ体操で体をほぐした参加者は、3・5・7キロの3コースに分かれてスタート。沿道では、市民から大きな声援が送られていました。



春風を受けながら 力走

第35回登子連こいのぼり
マラソン大会



新しいウォーキングを体験 グを手入れ

桜ヘルシーウォーキング&
桜の手入れ



5月9日(日)、カント・レラで『桜ヘルシーウォーキング&桜の手入れ』（のぼりべつ桜ざか『一期一宴』実行委員会主催）が行われ、今年度は、『桜ヘルシーウォーキング』に、初めてノルディックウォーキングを取り入れられました。

ノルディックウォーキングはフィンランド発祥のスポーツで、ポールを使いウォーキングすることで、通常のウォーキングより高い運動効果が得られるといわれています。

例年、このウォーキングに参加する方も、ほとんどがノルディックウォーキングは初めて。参加者は、NPO法人健康保養ネットワークの指導者から、ポールの持ち方や歩き方の指導を受けた後、約5キロの道のりを仲間や家族と楽しく歩いていました。



災害時の協力体制を確認

『危機発生時における相互応援に関する協定』 調印式



▲協定書の締結を終えて三市長で記念撮影
左から内野優海老名市長、風間康静白石市長、小笠原市長

4月22日(木)、宮城県白石市の白石城天守閣で、登別市・白石市・神奈川県海老名市の三市による『危機発生時における相互応援に関する協定』の調印式が行われました。この協定は、地震や噴火、水害などで被災した市が十分にその対応ができない場合、ほかの二市が食料や飲料水などの救援物資を提供したり、道路復旧などを支援したりするものです。

これまでは、姉妹都市の関係にある登別市・白石市と白石市・海老名市が、平成7年にそれぞれ災害時相互援助協定を締結していましたが、昨年11月に行われた三市長てい談(※)をきっかけに協定を見直すことになり、改めて三市で一つの協定を締結したものです。

調印式には、三市長が陣羽織姿で出席。小笠原市長は「近年は、地球温暖化などの影響により、これまでとは異なる災害の発生や被害が懸念され、多くの市民が不安を感じています。三市の相互応援協定は、市民生活の迅速な復旧・復興を図るために不可欠であり、万一の際は、三市が互いに手を取り合い、一日も早い復興を目指します」とあいさつ。三市長は握手を交わし、より一層の協力を確認し合っていました。

※てい談…3人が向かい合って話し合うこと。